

平成29年度 第4回 学校運営協議会 記録

男鹿市立潟西中学校

日 時 平成30年2月2日（金） 14：20～16：25
会 場 校長室

□佐藤毅委員によるコントラバス・コンサート（1、2年生対象）

14：25～15：15

※地域の方々4名参加

□協議会（司会：教頭）

15：25～16：25

- 1 3つの目指す生徒像とコミュニティ・スクールの評価についての協議
今年度の学校経営の重点と方策及び自己評価についての説明：校長
協議・評価：学校運営協議委員

(1) 『学ぶ（学習に励む生徒）』について

【鈴木委員】

アンケート結果の2年生に十分に達成しているという回答が多いことについて説明があったが、あまり気にしなくていいのではないかと。

【村上委員】

「…自分から進んで情報を集めたり、誰かに質問したりしていますか」という質問があったが、先生だけに聞くのとは別に、友達同士教え合うことも学力が伸びる要素ではないかと思った。

【佐藤勝委員】

昨年と比較したらどうか、教科が嫌になっていることはないか。

【校長】

教科の点数は向上している。勉強が好きかと問うと、好きではないという回答が多いのだが、教科ごとにみると、増加している傾向もうかがえる。

【三浦委員】

学年ごとの子どもたちの傾向も影響しているのではないかと。

【加藤委員】

県平均より上になっているので、先生方や家庭の努力がうかがえる。

【佐藤毅委員】

「勉強が好きだ」が下がっているが、「勉強が分かる」が上がっているのが不思議な感じがする。

【鈴木委員】

子どもたちは大変落ち着いて授業を受けている。来年2年生が上級生になると、変化する期待がある。

(2) 『挑む（目標に向かって挑む生徒）』について

【加藤委員】

縦割り班は結果的によい方につながっていると感じる。

【佐藤勝委員】

昨年の生徒のアンケートでは、無言清掃が学校の自慢であった。3年生の姿を下級生が見ていたと思う。これからも続けてほしい。

【教頭】

今の清掃も縦割りにすることで先輩としての自覚が表れている。

【村上委員】

是非、子どもたちの清掃の状況なども見てみたかった。

【三浦委員】

様々な取組から、先生方、子どもたちの一生懸命さが伝わってくる。昔は地域でも子ども会などの縦のつながりがあったが、今はそのような機会がないので、縦割り班の活動はとてもいいことだと思う。

(3) 『関わる（友達と関わり合う生徒）』について

【加藤委員】

挨拶運度に積極的に取り組んでいるようである。先生には子どもと会ったときは「おはよう」だけで終わるのではなく、子どもたちを観察して、表情から心の動きまで捉えてくれればありがたい。

【教頭】

校長は朝の挨拶での子どもの様子を職員室で伝えてくれている。

【校長】

先生方は職員室で、授業中把握した子どもの様子、変化などを伝え合っている。

【三浦委員】

中学校は教科で先生が変わるから、生徒の様子が見やすい。それを共有できているようなのでよいと思う。今日の演奏会でも担任の先生が子どもたちによく関わってくれ、よい関係になっているのが分かった。

【鈴木委員】

家庭に戻ったときの生徒はどうか。学校と家庭との連携が大切である。生徒は外で会ったとき、きちんと挨拶をしてくれている。

【佐藤勝委員】

校長先生は朝早くから挨拶運動をしてくれている。PTA挨拶運動にPTA会員も参加するように通知はしているが、なかなか参加できていない。

【三浦委員】

子どもたちのよい自己評価は、先生が子どもをよく見て関わっていることの裏返しではないか。子どもにとって先生が一番の指標である。コントラバス・コンサートのときの先生の接し方もそうである。先生方も忙しいと余裕がもてない。今の学校の先生方は忙しく、大変な中でやってくれている。愛情をもって接してくれてありがたい。

(4) 『コミュニティ・スクール』について

【鈴木委員】

よく創意工夫してやってくれている。会議があるので来てくださるのではなく、給食試食、演奏会などを兼ねるなど工夫してもらっている。委員として参加させてもらってありがたい。

【三浦委員】

学校報は字が大きくて読みやすい。学力調査のよい結果もうれしかった。

【村上委員】

是非、この形の学校報は、今後も継続してほしい。子どもが中学校を卒業しても、この学校報を通じて潟西中のことがよく分かる。

【佐藤勝委員】

学校運営協議会に参加するのが楽しみである。昨年度は授業参観だけだったが、今年度はいろいろと企画してくれていて、自分たちの意見も積極的に聞いてもらえている。今後も続けてもらえらるともっと明るくなるのではないか。

【鈴木委員】

部活動や行事をよくやってくれてありがたいが、働き方改革とも言われている。部活動や授業などもあり、先生方の負担や重荷になっていないか。

【教頭】

負担はあり、毎日1～2時間の残業はしている。国でも部活動の専任など負担を減らす取組が行われ始めている。

【加藤委員】

会社など忙しい職場はそれなりにやっているが、学校はきりが無い職場である。なかなか時間の余裕はないが、その状況がよくなれば学力向上やよい学校につながっていくと思う。

【佐藤毅委員】

先生方が頑張ってくれている。学校の雰囲気がよく、それが子どもの成長につながっていると思う。うちの小学生の子どもも、潟西中に入れたいと思う。

これらの意見を踏まえ、各委員一人一人から評価をしていただいた結果は次のとおりである。また、委員の評価を基に、鈴木剛会長から総括評価をしていただいた。

	委員1	委員2	委員3	委員4	委員5	委員6	総括
学ぶ	B	B	A	B	B	A	B
挑む	B	B	A	A	A	A	B
関わる	A	A	A	A	A	A	A
CS	A	A	A	A	B	A	A

2 「コミュニティ・スクールの推進に係るアンケート」について（教頭）

- ・アンケート記入